

第3章

地球市民学探究講座

齊藤 瞳

1. 目 標

本講座も生命科学探究講座と同様に、学校特設科目であるSLPⅡとの関連を考慮して設計した。SLPⅡの地球市民学は高校二次に単位履修する。本講座はこの内容を更に発展させ、大学の学びへの接続を目指した。本講座の目標は、世界のグローバル化に伴うさまざまな問題や課題について生徒に認識させ、地球市民としてどのような役割が期待されるのかを生徒自ら発見することである。そのために、客観的な観点から様々な知識を統合し、最終的には地球市民として個人のレベルで何ができるかを考えさせる。これらの目標から、生徒に身につけさせたい学びの力は、人文・社会科学的な課題の発見と課題解決力、社会科学における論理的思考力、科学的な探究力（データの解釈・分析・批評）、自覚的なキャリア意識の形成である。

2. 学習方法

本講座の特色は、グループまたは集団課題を積極的に取り入れることで、講義で学んだことを、ワーク・アクティビティを通じて実践的に、また自主的に応用する力を培う。アクティビティの一例として、集団討議やグループ・シミュレーションなどが実施された。

3. 実践内容

第一章末の付表参照

4. 成果と課題

次の表は1回毎の授業後に生徒へ実施したアンケートの集計である。「大変そう思う」を1、「だいたいそう思う」を2、「どちらともいえない」を3、「あまりそう思わない」を4として集計したところ、以下のような結果を得た。

質問1 今日の授業内容はよく理解できたか？

(%)	1	2	3	4
2012	35.62	62.09	1.96	0.33
2011	46.13	44.37	7.04	2.46

質問2 今日の授業の内容に興味がもてましたか？

(%)	1	2	3	4
2012	51.63	44.12	4.25	0
2011	55.48	35.69	7.07	1.77

質問3 何か新しいことを発見することができましたか？

(%)	1	2	3	4
2012	51.63	37.58	10.46	0.33
2011	52.82	37.68	8.1	1.41

質問4 授業後に自分で調べてみたいという気持ちが生まれましたか？

(%)	1	2	3	4
2012	24.84	55.23	19.61	0.33
2011	29.43	46.45	19.86	4.26

質問5 授業に意欲的に取り組むことができましたか、あるいは取り組むことができませんでしたか？

(%)	1	2	3	4
2012	38.49	53.62	5.59	2.3
2011	42.61	40.85	9.86	6.69

すべての設問に対して「大変そう思う」と「大体そう思う」と答えた生徒の割合は全体の80%以上を占めている。特に質問1、質問2、質問5に関しては全体の90%を占めていることがわかった。このことは、生命科学探究講座と同様に、授業内容に対する生徒の高い意欲と興味関心が読み取ることができる。また、質問3で授業後に自分で調べてみたいと思った生徒が「大変そう思う」と「大体そう思う」をあわせて80%を超えることから、自分の視野に入っていなかった新たな情報を得ることができ、学びの土台が豊かになったと考えられる。さらに質問4においても全体の80%の生徒が授業後の調べ学習にたいする意欲をみせていることから、学びの土台が豊かになったことでさらに情報を収集し、自分なりに考えようという意欲を持たせることができたと考えられる。

また、生命科学探究講座と同様にこのアンケートでも自由筆記の項目があり、生徒の声を抜粋すると、「自分は一方向からしか物事を見ていない」という、いつも当然のここのように行っていることの根本的な違いについて興味深いお話だった。」「異文化との交流について、前々から興味があり、海外に日本の文化を伝える仕事に

も興味があった為、このようなことについて学ぶ機会が欲しいと思っていた。」「今までとても普通に考えていたことが、とても奥の深いものだということが分かった。」「日常で自分が不思議に思っていたことや疑問であったことを今日の授業で説明してもらえた。」など地球市民学という通常の授業からはイメージしにくい学問で、新たな知識を得られたことに満足する記述がみられた。またこれらの記述から、日常生活で何気なく考えていることがさらに深く探求できるということに気付いた様子がみうけられる。このことから、生徒に新たな探究する意欲をもたせることができたと考えられる。そのため、本講座で得られた、探究する意欲を失わせることなく、地球市民学に対する学びの姿勢を維持させる働きかけを行うことが今後の課題として挙げられる。